

# 「フィリピンに本をおくる会」通信 No/6 2018/4/15

発行所：『フィリピンに本をおくる会』事務局（代表：金子多美江）

〒338-0012 さいたま市中央区大戸 4-8-13 ☎ 048-831-7538



<第3図書館で>

**本を楽しむ子どもたち  
みんな本が大好きなんだ！！**



<第2図書館で>

本を読むって楽しいね。本を読めるって  
嬉しいね。だって字を知らない人にも  
読んであげて喜ばれるんだ！



<5歳児学級でも>

## \*\*\* おかけさまで三周年！！ ますます必要な「本のちから」\*\*\*

皆さまのお力添えで「フィリピンに本をおくる会」は、沢山の成果を残して3年目を終えることが出来ました。2回の現地訪問と、2回のマニラ会談で情報交換をしながら活動を進めてまいりました。一番大きな喜びは、学校が開かれていない地域に第3図書館が出来、本を読む喜びがますます広がったことです。担当のテルマさんは出産するという厳しい状況の中で図書館を開館してきました。スタッフたちは学習指導もしたとのことで、たどたどしいながらも自分の力で読むことが出来るようになったそうです。また、紙芝居は日本の「紙芝居文化推進協議会」のコンクールに出展、15年度は「ぼくだって勉強したい!」、17年度は「ウトイのとくべつな本」が入選、現地で表彰式も行いました。表現する力も大きく伸びました。



<橋が流され船で通学する

子どもたち>

各図書館のイベントは各館の年間計画に従って行われ、毎月の読み聞かせの会をはじめ、学年ごとの朗読コンクール、折り紙や工作、ゲームの会もあり、学校への出前も増えているそうです。特に「レゴ」は子どもたちを魅了し、立体認識を高めました。

「おくる会」は、これらのイベント費、痛みの激しい建物の修理費、パソコン購入費などの支援を行い、無給のスタッフには年2～3回ボーナスを送りました。

本の送付はこの3年間で1,165冊に及び、これで送付総冊数は6,570冊になりました。本の送付時に周りに詰める生活用品は、現地で販売して図書館の運営費になっていますが、これも6回22箱（1箱50kg!）にもなりました。

これを支えている日本の応援活動も素晴らしいもので、翻訳、本づくり、発送などの活動、「あむあむ」の製作・販売活動と、協力してくださった沢山の皆様、感謝しきれません。

また、代表：金子多美江の教員時代の教え子たちが本づくりなどに参加してくれますし、本日4月15日のチャリティコンサートの企画・運営も中心となって行ってくれました。世代を超えた若い人たちの応援がとても心強く、どんなに励まされていることでしょう。

皆さま、「本をおくる会」は今後も本を送り続けるつもりです。どうぞこれからもお力をお貸しくださいますようお願い申し上げます。



<あむあむの展示会>



~大雨・大風にたたられたが無事終了~~

今回はミレナ先生、セラさんの通訳で深い話し合いが出来た。乾季というのに大雨、台風のような強風、川の水の増水で竹の橋が流され、船で川を渡った。小さいながらもソーラーが付けられ、テレビのある家も。スマホも持っている。子ども手当が出るようになり子どもたちもござっぱり。天候で変更もあったが、計画は大体実施できた。

<訪問団: 左から石井さん・合田さん・小池さん・吉濱さん・金子(多)さん  
ミレナ先生・金子(仁)さん・ニニさん(ミレナ先生の妹さん)・古田さん>



◆ 紙芝居表彰式 ◆

\*せっかくの表彰式の日、土砂降りの雨!  
庭に設置された見物席は無残な姿。  
\*でも第2図書館にはびしょぬれでも遠くからやって来た200名もの子どもたちが集まり受賞を祝った。

\*贈ったパソコンの動画で練習した踊りの披露もあり、終了後はお母さんの作ってくれたお弁当を食べ、ゲームで楽しんだ。

\*\*\*\*\*

<穴のあいた吊り橋は危険なので、船でマリパイに渡るが、子どもたちはピョンピョンと走っていく>



<沢山のお土産も船で>



<雨なのにぎっしり集まった子どもたち>

◆ 第3図書館訪問 ◆



◆子どもたちと交流



◆学校訪問



◆市長訪問



\*\*\* 初めて訪ねたマガタ、感想は? \*\*\*

ミレナ先生、ニニさん: 話聞いていたよりずっと奥地で、私たちフィリピン人でさえ経験したことがないような場所で驚いた。

このような所へ何十年も本を送り続けてくれたことに、改めて感謝したい。

吉濱さん: 「あなたのくださった本たちに会いに行きませんか?」と誘われて思い切って参加させていただき、体調を崩したりしましたが、本当に良い経験になりました。図書館を見た時の感激、子どもたちとの出会い、日本で話を聞いただけではわからないことが、更に理解できました。これからも私なりの協力、お手伝いをさせていただきます。

小池さん: マガタは大自然の中にありました。そこに図書館が三つ、金子さんたちが作ったものです。とても不便な山の中なのに子どもたちが沢山いて、図書館で子どもたちが幸せそうに本を読む姿に胸をうたれました。この会の長年の積み重ねがマガタに根付いて、本を読むのが日常になっているのです。金子さんたちの活動がはるか遠い地に花開いていることに、改めて敬意を表します。





私たちがつくったのよ !!

~~~17年度 紙芝居入賞作~~~

「ウトイのとくべつな本」

\*全国からの応募 290点

ジュニア 147点

一般 143点

\*入賞 ジュニアの部 8点

\*バカル：山の田んぼに村全部の家から

農作業の手伝いに行くこと



ウトイのとくべつな本

①ウトイは6年生。朝早く起き川から  
水を何回も運んでから学校へ行く。



②放課後、子どもたちはすべる坂を  
駆け上って図書館へ行き本を読む。  
「オーイ、ころぶなよー」



③友だちはいろいろ違った本を見る  
けれど、ウトイはたった一冊の特別な  
本を繰り返し繰り返し見ている。



④ある日ウトイは母さんにかわって  
バカル(\*)に行くことになった。  
2週間は学校を休まなければならない。



⑤あくる朝、ウトイは図書館のお姉さんに  
頼んで、あの特別な本を貸してもらい、



⑥それを持って父さんと山へ出かけ  
毎日農作業に励んだ。



⑦昼間仕事を終えるとやっと自分の  
時間、ウトイは本を広げた。



⑧そこには見たこともない乗り物がぎっしり。  
この本の中で違う所へ行けるんだ。



⑨夜はたき火を囲んで、ウトイは仲間たちに  
その本を読んであげる。すごいなあ、乗って  
みたいなあ、いろんな所へ行ってみたいなあ!



⑩とうとうバカルが終わりウトイは  
元気に帰ることが出来た。ありが  
とう。この本のこと忘れません!



<紙芝居コンクール表彰式>

審査員評：くり返しくり返し読む本、読むたびに想像の世界が広がり、  
明るい未来を期待できる本、本の持つ力、それが生きる力につながっ  
ていくという事をよく描いています。絵もいきいきとしています。





# 「フィリピンに本をおくる会」23年の歩み <2018.4.15>

~~~~喜びも苦勞もわかち合っ~~~~

## <フィリピンで>



初めて本に出会った子どもたち



川を渡って本を届ける



図書館ができる



本はみんなの宝  
今日もたくさん  
子どもたち

## <日本で>

- ◆フィリピン北東部、学校も電気もない貧困の村を助けてほしいと要請があり、「海外教育支援協会」(現フィリピンに本をおくる会)を組織し、持って行った本に感動する子どもたちに本を送ることを決め、以後支援を続ける。
- ◆本はたくさん集まったが、選本に苦勞する。
- ◆タガログ語で訳をつけることにし、在日フィリピン人・留学生・パブを歩き廻り、翻訳を依頼する。
- ◆本づくり ⇒ 日本文の上にタガログ文を貼り付け、レイアウトする。

\*学校・図書館・サークル・PTAなどの協力

### ◆本送り

~~~資金づくり~~~

- ◎ 寄附・様々な形で
- ◎ 編み物グループ「あむあむ」の作品販売
- \*フリーマーケット
- \*タウンカフェ
- \*個人宅 etc.



真ん中に本

周りに生活用品

衣類・バッグ  
文具・石鹸・靴

現地フリーマーケット

<ウーカイ・ウーカイ>

**みんなの力で運営!!**

◆本の送付

年3~400冊

◆支援物資の送付

年10箱程度

◆送付した本

6,570冊超

◆3つの図書館を

建てる

